あさひまち

広　報

2002年11月号
No. 552

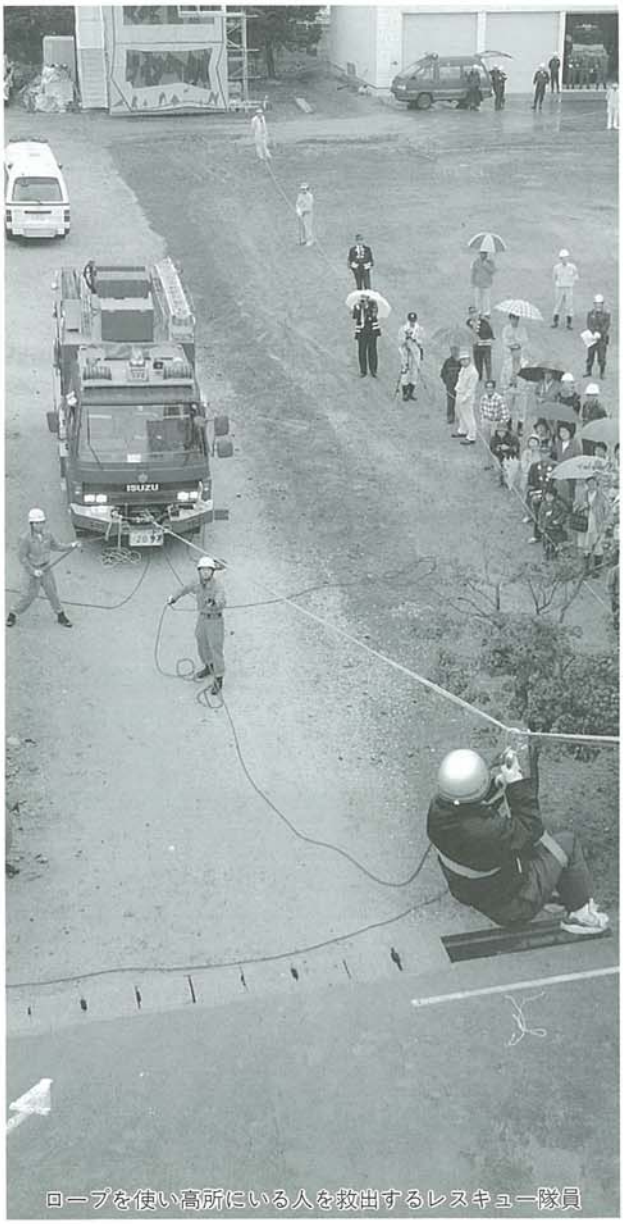
特集　災害に強い町づくりを　みんなの手で

町政スポット／市町村合併シリーズ②、中沢ふれあいプラザ落成式　ほか
平成14年度上半期の財政状況公表
まちの話題／アップル町民駅伝競走大会、芸術文化祭　ほか

タスキがつなぐ地域の和
アップル町民駅伝競走大会（10／13）

特集 ◐ 自主防災組織づくりを考える

災害に強い町づくりを みんなの手で



ロープを使い高所にいる人を救出するレスキュー隊員

平成七年一月十七日早朝に発生した阪神・淡路大震災。年月がたつにつれ、災害自体が風化しつつあるようですが、六千人もの尊い命が犠牲となり与えてくれた教訓は、決して忘れてはなりません。八年がたとうとしている今、地震の恐ろしさや防災の大切さを改めて考えてみる必要があるのではないでしょうか。

こうした中、町総合防災訓練が十月二十日、役場周辺を会場に実施され、住民や防災関係機関職員など約千人が初期消火や人命救助など本番さながらの訓練に取り組みました。今月は、その模様をお伝えするとともに、これからの地域防災「自主防災組織づくり」について考えてみます。

住民のみなさんによるバケツリレー

足早に避難場所へ向かう宮宿小児童

三角巾を使った応急手当訓練

直下型地震を想定した大規模な防災訓練を実施

「十月二十日午前八時三十分ごろ、山形県内陸部を震源とするマグニチュード七・〇の直下型地震が発生し、町内全域で震度六強を記録。六十八戸の建物が倒壊、百三十人を超える町民が重軽傷を負った模様。電気、電話、水

県防災ヘリ「もがみ」が役場屋上にとり残された人の救助に向かう

天ぷらなべ火災の初期消火訓練

600人分の炊き出しをする婦人防火クラブのみなさん

自衛隊員たちが建物の下敷きになった人を救出

管内の消防団も応援にかけつけ、火災防ぎょ訓練を実施

道などのライフラインに大きな被害が確認され、町内数箇所から同時に火災が発生中」

このような想定で行われた町総合防災訓練。役場周辺を会場に、宮宿五区と緑町住民、さゆり保育園児、宮宿小児童、消防団員、婦人防火クラブ、西村山広域消防本部、寒河江警察署、陸上自衛隊、NTT、東北電力、災害ボランティア、町職員など約千人が参加し実施されました。

午前八時三十分、清野町長を統監、白井助役を本部長に訓練開始。災害発生にともなう町職員の非常招集訓練にはじまり、町民体育館への住民避難訓練、医師や看護師、医療ボランティアスタッフによる応急医療訓練などが次々行われました。

体育館隣のちびっこ広場では、消火器やバケツを使った住民初期消火訓練と、西村山広域消防本部職員・陸上自衛隊員による被災者救出訓練が本番さながらに展開されました。

また、県消防防災ヘリ「もがみ」が出動し役場屋上に取り残された人を救出する訓練や、自衛隊の特殊車輌を使った橋の架設訓練、消防団員の火災防ぎょ訓練、婦人防火クラブのみなさんによる炊き出し訓練など計二十五項目が実施されました。

時折雨が降るあいにくの天候でしたが、参加者は真剣な表情で訓練に臨み、防災への理解と関心を深めました。

■山形県活断層調査結果

断層帯	位置・長さ	最新活動時期	平均活動間隔	平均変位速度
山形盆地断層帯	大石田町～上山市 約60km	約6000年前以降	約3000年	約1～2m／1000年
長井盆地西縁断層帯	大江町～白鷹町 五百川峡谷約19km	約10000年前	不明	約0.35～0.47／1000年

■国の地震調査委員会長期評価

山形盆地断層帯	予想マグニチュード 約M7.8	今後30年以内 ほぼ0～7％	今後50年以内 ほぼ0～10％	今後100年以内 ほぼ0～20％
宮城県沖	予想マグニチュード 約M7.5～8.0	今後10年以内 26％	今後20年以内 81％	今後30年以内 98％

朝日町でも起こりうる大規模な地震

直下型大地震を想定して行われた今回の総合防災訓練。山形県は比較的地震が少ない地域で、災害への関心も薄くなりがちですが、県内には地震の原因となる活断層が約六十も存在するといわれています。

国は阪神・淡路大震災の教訓から、全国の主要な活断層について調査を実施しています。山形県においても活断層調査委員会による調査が行われ、その詳細が明らかにされました。この結果をもとに、国の地震調査委員会は、将来における活動性や発生確率を公表。山形盆地断層帯は、今後三十年以内にマグニチュード七・八程度の地震が最大七％の確率で発生すると予想されました。これは、阪神・淡路大震災の規模（M七・二）を上回る地震で、全国の断層帯の中でも発生確率の高い断層帯として上位にランクされました。

地震の予測は難しく、いつ、どこで発生するか分かりません。いたずらに恐れることはありませんが、「備えあれば憂(うれ)いなし」というように、災害に対する日ごろの備えが何より大切です。

今、問われている自主防災組織の必要性

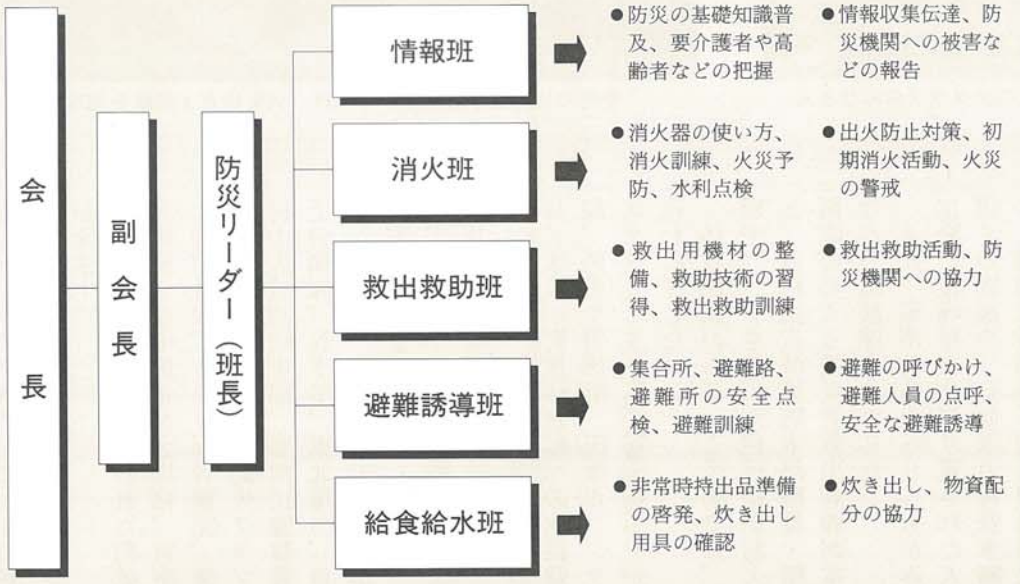
万が一災害が発生した場合には、消防をはじめ警察、自衛隊などの各関係機関が全力をあげて防災活動を行いますが、大きな地震などの際には、火災の同時発生や家屋の倒壊、道路損壊などによる通行障害が起き、消防などの防災機関の活動が遅れることが予想されます。

実際、阪神・淡路大震災では、道路・鉄道・電気・ガスなどの都市基盤が崩落し、職員自身も被災したことから災害発生直後は防災関係機関の活動が十分に機能しませんでした。その一方で、隣近所の多くの人たちが協力し合い、救助活動に参加して尊い命を守った事例や、初期消火を行い延焼を防止した事例などが多数報告されています。

防災関係機関が活動するまでの間に初期活動を行うか否かで被害の規模は変わってきます。しかし、個人や家族がいくら頑張っても、その力には限界があります。また、住民がバラバラに行動すれば効果も薄く、逆に二次災害の恐れもでてきます。

そこで求められるのが「自主防災組織」です。自主防災組織とは文字どおり「自主的に防災活動を行う組織」のことをいいます。毎日顔を合わせている隣近所の人たちが集まって、互いに協力し合いながら防災活動に組織的に取り組み、地域の生命

■自主防災組織の主な活動と体制



■町がめざす防災組織体制

夏草区長
齊藤　利八さん
（夏草）

自分たちの地域は自分たちで守る

地区内の消防団員は町外に勤めている人がほとんどで、日中災害が起きた場合の対応は大きな課題です。そこで、今年４月に夏草区独自の自主防災組織を結成しました。これまで自衛消防隊を組織していましたが、火事以外の災害が起きた場合でも迅速に対応できるように再組織化しました。名簿を作成し、各家庭へ配布したところ、区民の意識も高まってきたように思います。来年度から本格的な活動、防災訓練などを実施したいと考えています。夏草区は最上川が近く、昭和42年の羽越豪雨のような水害をはじめ、地震、雪害、火災などの災害がいつ発生するかわかりません。「自分たちの住む地域は自分たちで守る」という気持ちを大切に、日頃から呼びかけなどを行い、地域みんなで防災意識を高めていきたいと思っています。

民生児童委員
松尾みさ子さん
（大町）

防災パンフレットの作成を

民生児童委員として、高齢者や要介護者の存在など地区内のことをある程度知っておかなければなりませんが、私が担当する中郷団地・雇用促進アパート・緑町は新しい住宅地のため把握が大変です。万が一大きな地震が起きた場合、住民同士助け合って行動できるか心配で、自主防災組織の必要性を感じています。特に災害時に助けが必要な高齢者や要介護者の把握は、私たち民生児童委員だけでなく、隣近所みんなで確認しておいた方がいいように思います。

また、家庭においても避難袋を用意したり、家族で防災について話し合ってみることも大切ではないでしょうか。避難所や避難用品、緊急通報先などが書かれた町共通の「防災パンフレット」があると非常に役立つと思いますので、ぜひ作成していただきたいですね。

特集 ◑ 自主防災組織づくりを考える

災害に強い町づくりを　みんなの手で

と財産を守ろうというものです。現在各区には自衛消防隊が設けられていますが、地域の防災力をさらに強化するには、婦人会や長寿クラブなどを含めた地区全体の組織化が望まれます。

災害への備えは常日ごろの活動から

自主防災組織の主な活動として、次のようなことが上げられます。

①災害時の情報収集・広報、初期消火、負傷者の救出・救護、避難誘導、炊き出し・給水など
②平常時の防災訓練、地区内の安全点検、防災知識の普及・啓発など

災害発生時の活動はもちろん、地域全体の防災意識を高め、万が一に備える平常時の活動はとても重要です。また、活動内容や体制を明確にしておくことも大切で、書面にして役場や消防分署に届けておけば、有事の際スムーズな対応がなされるものと思われます。

自主防災組織の結成でより災害に強い町に

町は平成十五年度中をめどに町内全区に自主防災組織を発足させたいと、今年一月から六月にかけて区長さんへの説明会を開催してきました。今後手引書を作成し、それに基づきそれぞれの区で検討していただくことになりますが、自主防災組織はあくまで住民のみなさん自らが結成するものであり「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識がなければなりません。自主防災組織づくりについて県は「自主防災組織整備事業」を創設して組織化に力を入れています。町においても、訓練時の講師紹介や防災リーダー研修会などを行い支援していきたいと考えています。

安全な町をつくるには、日ごろから防災の重要性を認識し実践することが大切で、ぜひとも住民と行政が一体となった防災体制を早期に確立し、災害に強い町を築きたいものです。自主防災組織の必要性を、ぜひみんなで話し合ってみましょう。

市町村合併を考える／シリーズ②

全国や県内の取り組み状況はどのようになっているの？

県内はじめ全国各地で市町村合併を取り巻く論議が一段と活発化しています。

現在町では「西村山広域行政圏市町合併調査研究委員会」（一市四町企画担当課長で組織）と今年五月に設置された町独自の「市町村合併調査研究会」において、今後の財政状況の見通しや将来人口の予測、少子高齢化の推移、また合併のメリット、デメリットなどについて調査研究を進めています。この結果は近日中に報告書としてまとめられることになっていますが、今回は、全国や県内各地の取り組み状況などについてお知らせしたいと思います。

○市町村合併の考え方

市町村合併が論議されている背景については、これまでもみなさんにお知らせしてきましたので省略しますが、市町村合併は国や県のために行うものではありません。三十～四十年後の町の本当にあるべき姿を見据えて、将来にわたって朝日町に住む人が安心して楽しく、豊かに暮らしていくにはどういった町にすべきかといった長期展望にたった視点で考えることが何より大切です。

現行の市町村合併特例法の期限は平成十七年三月三十一日と定められていますが、「町土の発展」ということを基本に据え、充分議論を重ね誤りのない方向性を見出すことが重要となってきます。

○全国の状況

市町村合併をめざす法定の合併協議会や任意協議会、あるいは研究会の設置が全国各地で進められています。

合併特例法の期限までに、現在ある三千二百十八市町村が千九百七十程度に再編される見通しであることが先日新聞などで報じられました。すでに合併が決定しているのは二十カ所（七十三市町村）あり、今後合併が確実とみられる法定協議会は百四カ所（四百三十一市町村）、任意協議会が約二百三十カ所設置されています。これらを集計すると約千六百の市町村が合併し、約三百六十の新しい自治体に再編されようとしています。

全体的には、東日本より西日本、特に中国、四国、九州地方で進んでいるようです。ただし、合併協議がまだまだ難航しているところも多く、政府が目標として掲げている「全国で千自治体」は相当難しい見通しとなっています。

○県内の動き

県内では、合併に向けた協議会や研究会が、四十四市町村のうち三十一市町村で七つ設置されています。協議会が庄内地区に二つ、研究会が当西村山管内の研究委員会も含めて五つ設置され、うち鶴岡市を中心とする鶴岡・東田川地区の七市町村で十月十日、県内で初めて法定協議会「庄内南部地区合併協議会」が設置され、今後新市建設計画の作成などに向けて具体的な協

消防に新戦力

積載車2台配備

十月一日、一の六（上郷）と三の二（大暮山）に、それぞれ小型動力ポンプ付積載車が配備されました。

これまで使用していた車両が約二十年前に購入されたもので、老朽化が激しく、新しい車両への更新が望まれていました。

このたび配備された積載車は三千CC（4WD）の十人乗り、価格は四百三十八万三千円。器具の操作が簡単な最新型です。新戦力の加入により、町の消防力がさらにアップされました。

地域づくりの拠点施設として期待大

―中沢ふれあいプラザ、大谷第四公民館が完成―

◀中沢ふれあいプラザ

◀大谷第四公民館

このたび、中沢区（五十嵐政志区長・三十八戸）に「中沢ふれあいプラザ」が完成しました。同施設は、国の介護予防拠点整備事業の補助を受けて整備されたもので、高齢者のいきがいづくり事業をはじめ、地域振興の拠点施設として活用されます。

木造平屋建て、床面積約百八十平方メートル（約五十四坪）、約三十台分の広い駐車場を完備し、事業費は三千六百十二万円。身障者用トイレと玄関前には長いスロープが設けられ、お年寄りたちも利用しやすく、喜ばれる造りになっています。

十月六日に行われた落成式で五十嵐区長は、「この施設を大いに利用して、さまざまな事業を行っていきたい。区民みんなが健康で、仲良く暮らせる中沢区にしたい」とあいさつ。区民や工事関係者など約六十人が完成を喜び、祝杯を交わしました。

一方、町道大谷南線改良工事にともない新築工事を進めていた大谷第四区（白田健治区長・二十九戸）の公民館ができあがり、区民など約六十人が出席して十月二十七日に落成式が行われました。

新公民館は木造平屋建て、床面積は約百二十二平方メートル（約三十七坪）。二七・五畳の集会室と七・五畳の会議室、調理室、倉庫が設けられ、室内は木のぬくもりを感じる落ち着いた造りとなっています。

「前の公民館よりも広くなって使いやすくなった」と、調理室で祝賀会の準備をする婦人会のみなさん。白田区長は「町の活性化は集落の活発な活動から。新しい公民館の完成を機に、さらに元気な地域づくりをしていきたい」と話していました。

議に入ることになっています。

管内の動きについては、河北町が昨年九月、西川町と寒河江市が今年度に入りそれぞれ庁内に独自の研究会を設置。広域の研究委員会と併行して調査研究を進めている状況です。特に河北町では、今年七月に学区ごとに座談会を開き、九月には町民三千人を対象としたアンケートを実施しました。なお、大江町については現在のところ庁内の研究会は設置されていません。

○今後の町の取り組み

今年度中に結論を出すことにしている町の「市町村合併調査研究会」および「西村山広域行政圏市町合併調査研究委員会」の調査研究結果報告書などをもとに、町民のみなさんにとって合併の是非についての判断材料となる的確な情報の提供を適宜行いたいと考えています。

また、地区ごとの座談会や町内の各種団体との話し合いなど十分論議を深め、必要に応じてアンケート調査を実施するなど、誤りのない選択ができるよう手立てを講じていく予定です。

○問い合わせ先
市町村合併調査研究会事務局
企画課（☎67―2112）

冬道の安全確保にフル稼働

歩道用除雪車購入

本格的な冬将軍の到来を前に十一月一日、国の補助を受けて歩道用ロータリー除雪車を購入しました。

購入金額は千二百十八万円。八十馬力のパワーがあり、地球にやさしい排ガス対策型除雪車です。歩行者が安心して通行できるようフル稼働し、冬道の安全に万全を期します。

町では今年も十八台の除雪車と十八人の除雪隊員を編成し、町道の除雪作業にあたりますので、みなさんのご協力をお願いします。

実現　夢のあるまちづくり

平成14年度上半期の財政状況を公表

町民のみなさんに町の財政状況を理解していただくとともに、町政に対する関心を一層深めていただくため、平成十四年度上半期（四月一日から九月三十日まで）の予算執行状況を公表します。

収入は国からの地方交付税（普通交付税）が年々減少しており、今年度は昨年に比べ約二億円減っています。そのため、新たな事業の展開が難しい状況になっていますが、経常経費の削減を行うとともに有利な補助制度を使いながら、夢のあるまちづくりを実現してまいります。

■一般会計予算歳入執行状況

□予算現額
□収入済額

		予算現額	収入済額
依存財源（七四・五％）	地方交付税	26億4,018万円	18億1,636万円
	町債	5億937万円	4,260万円
	県支出金	2億8,392万円	4,319万円
	国庫支出金	1億4,583万円	2,939万円
	その他（譲与税交付金等）	2億33万円	9,335万円
自主財源（二五・五％）	町税	6億931万円	3億2,217万円
	繰入金	4億8,188万円	70万円
	使用料手数料	6,546万円	3,414万円
	その他（分担金負担金等）	1億3,549万円	1億853万円

■主な使いみち

合併処理浄化槽設置推進事業

美しく快適な生活環境づくりを進めるため、合併処理浄化槽の設置を推進。９月末日まで38基、総額29,140,000円を補助。

園芸銘柄産地育成事業

県の補助を受けて、防除機６台、乗用草刈機11台の購入と、りんご大苗養成等に取り組んだ。事業費13,632,000円。

宮宿小学校屋外運動場整備事業

小学校再編計画にともない、母体校となる宮宿小学校グラウンドの排水処理工事を実施。８月末完成。事業費23,048,550円。

町の台所事情（平成13年度決算より）

■町有財産の状況

土地	261万648㎡	建物	6万5,053㎡
温泉権	1,850万円	有価証券	7,167万円
出資金	5,119万円	預託金	2万円
出捐金	3,631万円	基金積立	10億9,931万円

■地方債（町の借入金）の状況

一般会計	77億6,931万円
集落排水事業	2,367万円
病院事業	9億3,026万円
水道事業	4億1,252万円

■主な財政指標

区分	朝日町 平成13年度	朝日町 平成12年度	県内市町村 平成12年度	全国類似団体 平成12年度
経常収支比率	95.4	91.7	84.8	81.6
公債費負担比率	26.3	25.5	20.0	18.2
公債費比率	16.2	16.1	16.2	14.2
起債制限比率	11.5	11.7	10.7	9.6
財政力指数	0.19	0.19	0.31	0.26

※平成13年度については未確定

用語解説

経常収支比率

財政構造の弾力性を測定する比率として使われ、町村では70%程度が妥当と考えられています。支出のうち人件費、扶助費、公債費など毎年必ず支払う義務的性格の経常経費に、毎年常に入ってくる町税、地方交付税、地方譲与税を中心とする経常一般財源収入がどの程度充当されているかの割合を表します。

公債費負担比率

公債費に充当された一般財源の一般財源総額に対する割合を公債費負担比率といい、その率が高いほど財政運営の硬直性の高まりを示します。

公債費比率

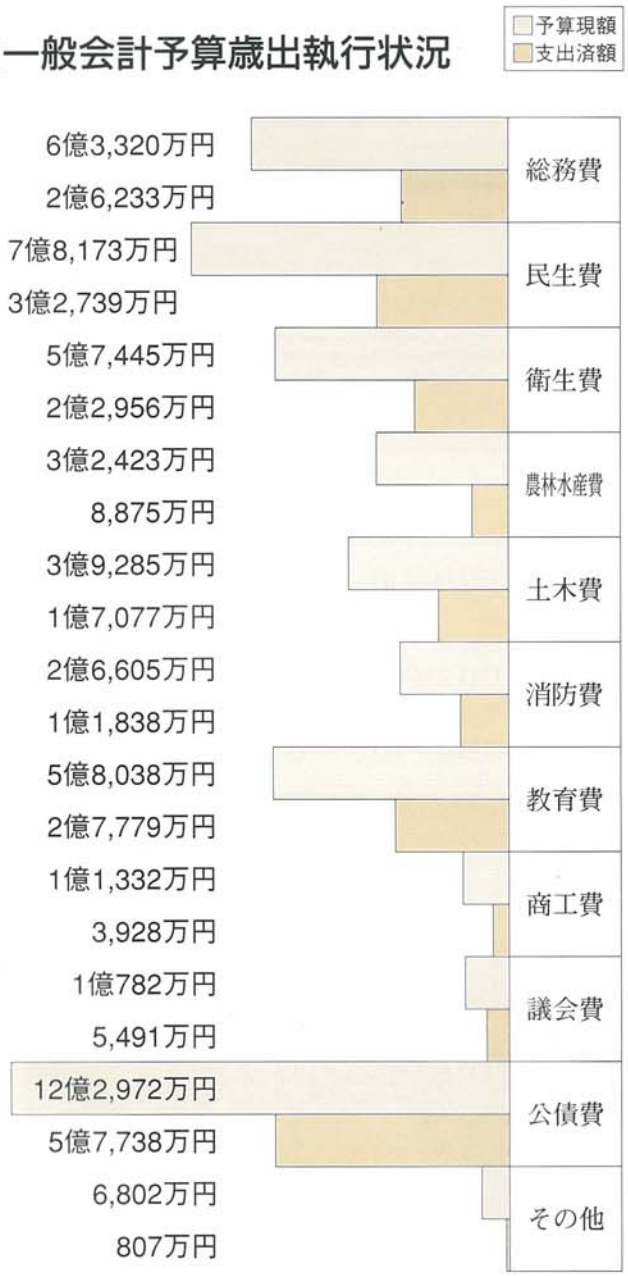
標準財政規模（町税、地方交付税、地方譲与税などの合計額）に対する公債費（町債の元利償還費）に充当した一般財源に占める割合をいいます。

起債制限比率

公債費比率の算出の際に使用された標準財政規模と公債費充当一般財源から、普通交付税に算入された町債の元利償還分を控除して算出した割合をいいます。この比率が3カ年平均20%を超えると町債の発行が制限されます。

創意と工夫で

■一般会計予算歳出執行状況



■会計別予算および収支状況　（単位：万円）

	予算額				収支額			
	当初予算額	補正予算額	繰越事業	予算現額	収入済額	対予算比(%)	支出済額	対予算比(%)
一般会計	486,000	8,040	13,137	507,177	249,043	49.1	215,461	42.5
特別会計	275,260	3,182	0	278,442	122,685	44.1	101,237	36.4
集落排水事業	1,590	0	0	1,590	699	44.0	277	17.4
国民健康保険	90,000	2,500	0	92,500	43,995	47.6	30,241	32.7
老人保健	124,100	0	0	124,100	50,830	41.0	47,050	37.9
住宅団地造成事業	2,050	0	0	2,050	1,058	51.6	0	0.0
介護保険	57,520	682	0	58,202	26,103	44.8	23,669	40.7
企業会計	118,970	100	0	119,070	51,716	43.4	50,091	42.1
病院事業	100,970	0	0	100,970	41,555	41.2	44,741	44.3
水道事業	18,000	100	0	18,100	10,161	56.1	5,350	29.6
合計	880,230	11,322	13,137	904,689	423,444	46.8	366,789	40.5

※病院・水道事業会計は、収益的収支。

まちの話題

❶ アップル町民駅伝競走大会

地区の熱い思いを込めタスキをリレー

優勝した宮宿Aチームのみなさん

宮宿Aチームが念願の初優勝

秋晴れの下、アップル町民駅伝競走大会が10月13日に開催されました。

創遊館前を発着とする11区間、24.9kmのコースで健脚が競われ、12チームが参加。レースは、序盤から上位につけていた宮宿Aが3区の和合ー大谷七間で阿部光展選手がトップに立ち独走態勢に。後続の選手も力走し、そのまま白いゴールテープを切りました。

成　績／①宮宿A③三中③太郎沢④沢内⑤上郷⑥和合⑦前田沢⑧中沢・玉ノ井⑨大谷風神⑩松程⑪ときわ⑫宮宿B

区間賞／1区菅井達也（和合）2区長岡輝喜（太郎沢）3区阿部光展（宮宿A）4区児珠葵（太郎沢）5区齊藤友恵（上郷）、志藤穂菜美（大谷風神）6区菅井修造（和合）7区志藤靖則（三中）8区堀浩一（中沢・玉ノ井）9区清野支麻（沢内）10区岡崎能行（沢内）11区海野宏行（沢内）

❸ グリーンツーリズム親子ふれあいバスツアー

◀世界のりんご園で記念撮影。宮城県七ヶ浜町の子どもたち

宮城県七ヶ浜町の子どもたちが来町

仙台圏の子どもたちに山形県の山村の魅力を満喫してもらおうと、「グリーンツーリズム親子ふれあい体験バスツアー」が10月12日行われ、宮城県七ヶ浜町亦楽（えきらく）小学校の児童や父兄が朝日町を訪れました。

これは県村山総合支庁が実施している山形・仙台交流事業の一環で、児童25人、父兄14人、先生2人が朝日町エコミュージアム・ガイドの案内で、世界のりんご園や空気神社、朝日自然観などを見学してまわったものです。

世界のりんご園では、種類の多さや大きさに驚いた様子で、佐藤つぼみさん（5年）は「いろんな種類のりんごがあってすごいと思った。中でも校長先生がもらった世界一にはびっくりした」。また、ある父兄の方は「自然観のコテージやワイン城、りんご温泉と隣の県なのにこんなすばらしいところがあるなんて初めて知りました。これから先も気持ちの良い交流を続けられればと願っています」と今後の交流に期待する声が聞かれました。

❷ さくら回廊記念植樹式

美しい郷土づくりをめざして

「最上川さくら回廊事業」（山形新聞・山形放送主催）の記念植樹が10月26日に立木の朝日川河川公園で行われ、地区住民や西五百川小学校6年生など25団体、約150人が参加。

「朝日町にお嫁に来た記念に申し込みました」という安藤淳子さん（緑町）は、愛情を込めながら丁寧にオオヤマザクラを植栽していました。

小雨の降るあいにくの天候でしたが、朝日ロータリークラブのみなさんが温かい芋煮をふるまい、参加者たちの冷えた体をポカポカにしてくれました。

満開の花に思いをはせ植樹する参加者

⑤ 朝日中3年生親子行事

成人式をオリジナルワインで祝おうとブドウを収穫する3年生

成人式での祝杯を楽しみに

「中学校生活の思い出づくりに」と10月6日、朝日中3学年の親子行事が行われ、生徒たちは保護者らとともにワイン城内の畑でブドウの収穫作業を行いました。収穫したブドウでワインをつくり、20歳の成人式で会飲しようというもので、「出来上がりが楽しみ」と子どもたちは期待に胸をふくらませ、作業に汗を流しました。

ハサミで丁寧に切り取ったブドウは、さっそく仕込み機械にかけられ醸造。フランスから取り寄せた専用の樽にねかせた後ビンに詰め、5年かけてじっくり熟成させるそうです。「ワインが5年間でおいしく熟成するように、子どもたちも充実した5年間を過ごし成長してほしい」と3学年PTA委員長の白田和好さん(大谷一)。成人式で祝杯をあげる姿を生徒も保護者も今から楽しみにしています。

④ 町芸術文化祭

文化の薫りにひたる

私たちの生活の中に潤いと安らぎ、そして、生きがいを与えてくれる芸術文化活動。その活動の発表の場が芸術文化祭です。

11月2日・3日の2日間、町芸術文化祭が創遊館でにぎやかに開催されました。子どもたちの絵画や盆栽の展示、ピアノや日本舞踊、民謡の発表などが行われ、多くの来場者に文化の薫りを届けました。

⑦ がっぱ村開村

都市と農村の交流の場に

都市と農村の交流の場となる施設「平成の原人館　がっぱ村」が太平橋のたもと今平地内に完成し、10月16日に落成式が行われました。

この施設は、町産の農産物を販売している関東地方の大手スーパー丸正会長の飯塚正司さんが造成したもので、施設内には竪穴式住居8棟、やぐら、古代米の水田などが整備されています。今後、炊事場や釣り堀、簡易の宿泊施設もつくられる予定で、飯塚さんは「まずは都会の子どもたちに野外生活を体験してもらう事業から始めたい」と話しています。

青少年の体験活動や町おこしの場として大いに期待されます。

たて穴式住居が立ち並ぶがっぱ村

⑥ 町の花 ひめさゆりの定植作業

ひめさゆりの定植作業を行うみなさん

町全体をひめさゆり園にしよう

10月27日、ひめさゆり愛好会（長岡嘉一郎会長）と町民ボランティア25人が参加して、町の花ひめさゆりの定植作業が行われました。

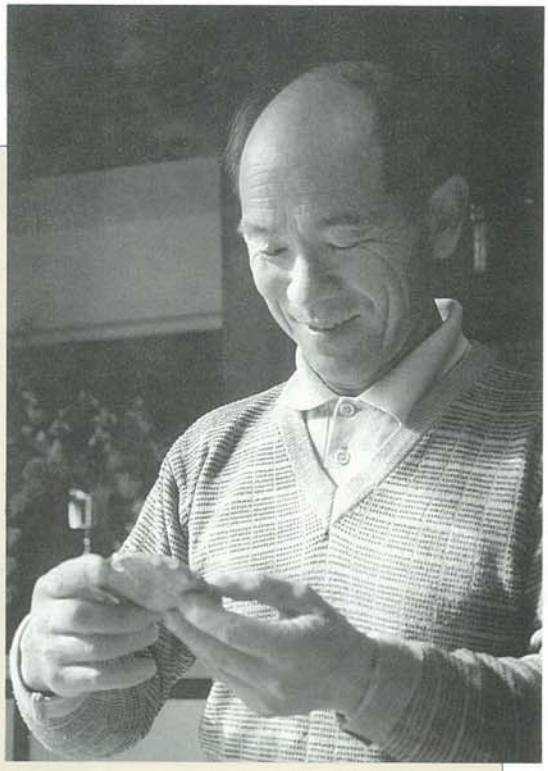
4年前、愛好会のメンバーの手により蒔かれた種が親指の爪ほどの大きさに成長したため、町農業研究所の敷地から杉山の山野に植え替えを行ったもので、参加者たちは約1万5000球の球根を一つずつ丁寧に並べ、やさしく土をかぶせました。

ひめさゆりは花をつけるまで約7年かかるといわれ、愛好会では平成9年から毎年育成に取り組んでいます。今回定植した球根は、花が咲きはじめる2年後に再び掘り起こし、町内の全家庭と学校などに無料で配布されることになっています。愛好会の長岡会長は「町全体がピンクの可憐な花で飾られるのが楽しみ。順調に育ってほしい」と子どもの成長を祈るような表情で作業にあたっていました。

また、この日はヒメサユリの里能中の一本松公園でも定植作業が行われ、能中区民と町職員労働組合総勢35人が協力して約500球の球根を植栽。参加者たちはピンクの花に思いをはせながら、一生懸命汗を流しました。

ひめさゆりの里一本松公園をきれいに整備

みんなのひろば



今輝いて

阿部　惣一郎さん
（西町・63歳）

昭和61年、松程新田の真木で国内初といわれる「円盤状石核」を発見。日本考古学界に大きな波紋をなげかけた。

阿部さんは今は宮宿に居住しているが、前は松程新田の住まい。敷地はそのまま縄文期の遺跡だったという。営林署勤務のかたわら、勤務を退いてからも25年間にわたって旧石器の発見に心血をそそいでいる。

旧石器の発見と研究に情熱をそそぐ

松程新田の平地は約五十町歩ほどの広さがあり、県考古学関係者の間では遺跡の宝庫として知られています。

阿部さんが「円盤状石核」を発見したのが昭和六十一年。昭和六十二年に山形に来ていたソ連の考古学者デレビヤンコ博士がそれを見て「典型的なルバロア型石核。これまで見たうちでは第一級の資料」と驚いたそうです。

昭和六十三年には、県埋蔵文化財の技官だった渋谷孝雄氏と共同で「真木遺跡の円盤状石核について」の表題で論文を発表しましたが、三万年前ともいわれる年代はまだ特定されていないそうです。

阿部さんの実績はもっとあります。平成二年の白倉奥のワサビ沢遺跡（未登録）の発見です。そこからは炭化した大量のしば栗が少数の石器とともに出土しました。四千五百年前の縄文中期の遺跡と推定されています。

阿部さんは目を輝かせて語ります。

「私が旧石器に興味を持ったのは沼向の菅井進さんの影響です。菅井さんが私の考古学の先生でした。今年も菅井さんを手伝って新田の自分の敷地を発掘しました。およそ六千五百年前の遺跡だということも分かりました。

これからは真木遺跡をもっと発掘して正確な年代を特定したいと思っています。元気なうちは旧石器をずっと追い続けるつもりです」。

阿部さんが発見した「円盤状石核」

となりのリンゴさん

作・ホリィ (146)

松程／白田 希（のぞみ）さん 優子さん

共通の友人を通じて知り合ったお二人。友だちとしての付き合いがしばらく続くうち、いつしかお互いを意識するように…。「いずれは結婚するのかな？」と思い始めたとき、希さんの「こんなんだけど、ついてきて」というプロポーズで結婚を決意したと、優子さんが照れながら話してくれました。

交際中、木々の緑が好きなお二人は、蔵王や森林公園にドライブに行き森林浴を楽しんだそうです。中でも一番の思い出は山形から秋田、岩手とドライブをしたこと。楽しみにしていた男鹿半島からみる日本海の夕日が、あいにくの曇り空で見ることができなかったそうで、「今度見に来ようね」と約束したものの、12月に控えた披露宴の準備や仕事の都合で、まだ実現していないとか。「何でも話せる楽しい家庭にしたい」というさわやか新婚さん、これからもお幸せに。

今月の新刊

おすすめ本！

「引き裂かれる世界」

「本格小説（上・下）」　水村 美苗 著

「嵐が丘」を彷彿（ほうふつ）させる悲恋、戦後日本の肖像を描く血族史、物語ることへのざん新な挑戦。今、小説の真の魅力が見事に華開く。

「引き裂かれる世界」　サミュエル・ハンチントン 著

二〇〇一年、NYでテロ事件が発生。ついに起こった「文明の衝突」。この後世界はどう動くのか。キリスト教圏VSイスラム、アメリカVS中国、そして日本の行方は？　それに対するひとつの答えがここにある。

「私の話」　鷺沢 萌 著

裕福な家に生まれ、思春期に父の死、家庭の経済的破綻、大きな生活レベルの変化を経験し、大学時代の作家デビュー、短い結婚生活、在日の自覚…。次々降りかかる波乱の半生をユーモラスに語る、著者初の自伝的小説。

▶ぶっかけめしの午後（椎名誠）▶中央構造帯（内田康夫）▶エコノミカル・パレス（角田光代）▶疾駆する夢（佐々木譲）▶あしたのロボット（瀬名秀明）▶過ぎてきた日々（津本陽）▶紫の領分（藤沢周）▶鬼女の花摘み（平岩弓枝）▶破綻国家の内幕（東京新聞取材班）▶民事裁判入門（中野貞一郎）

町民の声

みなさんからのおたよりでつくるコーナーです。
町に対する意見や要望、提案、みなさんの周りでの出来事や話題、日ごろ感じていること、イラスト、質問などお待ちしています。

■あて先／〒990-1442 朝日町大字宮宿1115番地
朝日町役場企画課　企画広報係
（☎67−2112　FAX67−2117）
■Eメール／kikaku@town-asahi-yamagata.com

農薬登録制度の見直しを

り んごの落果防止剤は品種ごとに登録されているため、新品種である「昂林（こうりん）」や「出羽ふじ」などに、「つがる」で使用している落果防止剤を使うことができません。使えば無登録農薬を使用したことになってしまいます。

現在他の品種で使用しているものを新品種にも散布できるよう、農薬登録制度の見直しを県や国に働きかけていただきたい。（匿名）

答 ご指摘のとおり、落果防止剤は品種ごとの登録となっています。したがって、登録のない新品種などには使用できないことになります。同じように作物によっては登録のある農薬がないなど、生産現場では多くの問題を抱えています。

県では、それらの問題点を整理して、国や農薬メーカーに対して農薬の登録拡大に向けた働きかけを行うことにしています。りんご落果防止剤の件については、すでに県へ要望していますが、同じような問題がありましたら、役場農林課または農協へご相談ください。（農林課）

合併処理浄化槽の維持管理は？

合 併処理浄化槽の維持管理について教えて！（匿名）

答 合併処理浄化槽の維持管理は各家庭で実施していただくことになりますが、具体的な維持管理としては、浄化槽法に定められた「保守点検」「清掃」「法定検査」の三つを行っていただかなくてはなりません。

保守点検は合併処理浄化槽が調子よく機能するよう年三回以上定期的に行うもので、点検の記録は三年間保存しなければなりません。清掃については年一回以上の実施が義務づけられています。保守点検と同様、点検の記録は三年間保存しなければなりません。「保守点検」および「清掃」は設置した方が法定の許可を受けた業者に委託することになります。「保守点検」と「清掃」の両方できる業者は、宮宿衛生社（西町）と朝日清掃社（元町）です。

法定検査は浄化槽が本来の役割を発揮し、適正に機能しているかどうかを確認するためのものです。この検査は県が指定した検査機関（財団法人県理化学分析センター）が行います。法定検査は、合併浄化槽設置後六カ月を経過した日から二カ月の間に受ける「設置後の水質に関する検査」と毎年一回の「定期検査」があります。

法定検査の料金は法律で定められていますが、保守点検と清掃点検については業者によってまちまちです。町では合併処理浄化槽による生活排水処理を今後も推進していくため、維持管理の点検をできるだけ安く実施してもらえるよう業者に協力をお願いしています。また、町では維持管理費に対する助成を行っていますので、くわしくはおたずねください。設置者の負担ができるだけ軽くなるような取り組みを、今後も行っていきたいと考えております。（建設課）

広報クイズ

町共通お買物券が当たる

【問題】
①右の写真「朝日町芸術○○○」
②町全体を町の花「○○○○○」で飾ろう作戦進行中。
③今年のアップル町民駅伝競走大会の優勝チームは？

【応募方法】
正解を「広報あさひまち」の折り込みハガキに書いて送ってください。正解者の中から抽選で二人の方に町共通お買物券をプレゼントします。また、広報記事に対する感想やみなさんのおたよりをお待ちしています。

【ニュージーランドクイズの正解】
①人口三百八十万人②首都ウエリントン　③国旗は
④有名なスポーツはラグビー

【応募者総数】十人
【当選者】長岡久美子さん（米町）、村山一史さん（宇津野）、白田美香さん（大谷五）

こせきのまど

■10月1日～31日届出

すこやかに

（出生届）

区名	出生児氏名	性別	保護者名
西船渡	若月 琢馬（たくま）	男	敏晴・裕美
元町	鈴木 和子（わこ）	女	誠・あえか
大谷四	鈴木 七海（ななみ）	女	吉彦・真由美
西船渡	鈴木 智也（ともや）	男	勝・早苗
古槙	渡邊 愛実（まなみ）	女	定雄・美智子
大谷四	白田 陽稀（はるき）	男	信一・直子
真中	武田 航河（こうが）	男	直樹・泰子
大谷三	鈴木 美景（みかげ）	女	昭由・智美
大谷四	松田 周平（しゅうへい）	男	秀明・賀代子
大谷四	松田 沙耶美（さやみ）	女	秀明・賀代子

おしあわせに

（婚姻届）

阿部貴幸（栄町）	♡	奥山美世（西川町）
清野稔浩（四ノ沢）	♡	中村真理子（山形市）
渡邉吉則（大谷二）	♡	菊地康子（宮城県）
白田希（松程）	♡	髙橋優子（寒河江市）

やすらかに

（死亡届）

区名	死亡者氏名	世帯主
大町	佐藤チヨ子	清一
松程	鈴木千江	與市
高田	長岡祐一	アツ
四ノ沢	柴田よしゑ	美喜雄
大谷二	川村シマ	信二郎
水本	岡崎みつゑ	惣一
夏草	阿部さた	美喜雄
常盤	山本三治郎	阿部正
四ノ沢	長岡昭	綾子

●掲載を希望しない方は、お届けの際にお申し出ください。

人口と世帯数

●平成14年10月31日現在

人口		9,256人（増5人）
	男	4,599人（増3人）
	女	4,657人（増2人）
世帯数		2,590戸（ — ）

（ ）内前月比

アニータ先生の楽しい英会話

What is the Capital of～?（ワット イズ ザ キャピタル オブ）

（～の首都はどこですか）

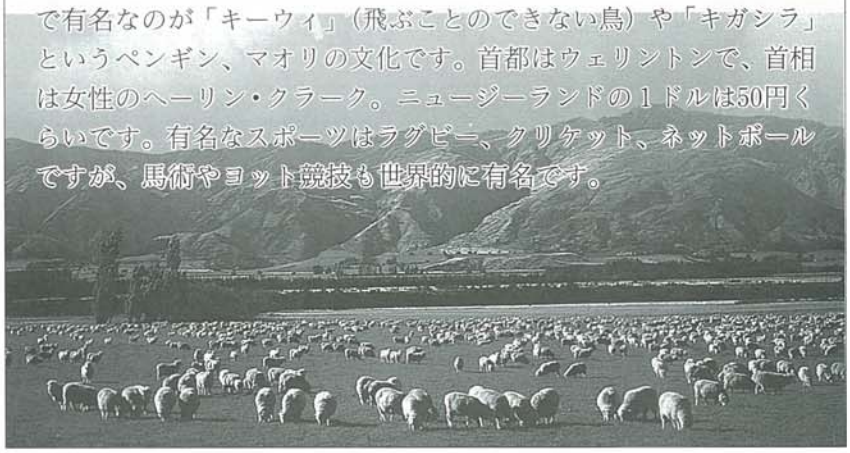
ニュージーランド ――白く長い雲のたなびく国

前回のニュージーランドクイズは分かりましたか？　今回はニュージーランドのことをみなさんに紹介したいと思います。

昔、オランダ人の調査者がはじめて訪れた際、オランダの沿岸地方の名「ゼーランド」をとって、この新しい土地を「ニューゼーランド」と名付けました。しかし、約1000年前にマオリという民族がニュージーランドに移住して「アオテアロア」という別の名前を付けました。それは「白く長い雲のたなびく国」という意味です。

ニュージーランドは南半球にあり、北と南の2つの島があります。最も近い国は太平洋北西にあるオーストラリアです。季節は日本と逆で、気候は厳冬も酷暑もなく年間を通じて温暖な気候です。北島は暖かくて南島は涼しく、雪は南島と北島の山岳地帯にだけ降ります。一番高い山は「クック山」で3754mです。

人口は380万人で80％はヨーロッパ系、20％はマオリです。羊は人口の20倍、約6000万匹います。ニュージーランドにしかない物の中で有名なのが「キーウィ」（飛ぶことのできない鳥）や「キガシラ」というペンギン、マオリの文化です。首都はウェリントンで、首相は女性のヘーリン・クラーク。ニュージーランドの1ドルは50円くらいです。有名なスポーツはラグビー、クリケット、ネットボールですが、馬術やヨット競技も世界的に有名です。



あなたの「宝」を教えてください

〝町内の宝を発掘し、さらに魅力あるまちに〟あさひまち宝さがし実行委員会と町教育委員会が「あさひまち宝さがし」を実施しています。

町の風景、建造物、歴史、人、生活の知恵、技、道具、食べ物、行事、芸術文化、遊び、思い出、コレクション…。あなたにとって、町にとって「かけがえのない宝」をたくさん教えてください。

今月の広報あさひまちの折込ハガキ、または創遊館、西・北部公民館にある応募用紙でご応募ください。応募締切日は一月十五日。問い合わせはNPO町エコミュージアム協会（☎67―2128）

■広報あさひまち　第552号　平成14年11月15日発行　■発行　山形県朝日町　■編集　朝日町広報委員会／山形県西村山郡朝日町大字宮宿1115　☎0237(67)2111　■印刷　豊田太印刷所

わたしの作品

「用の断崖」

小﨑　強（つとむ）さん（大暮山）

「朝日町を西から北へと蛇行する最上川は、長い年月をかけて川岸を削り落とし、人知の及ばない強烈な『絵になる風景』を形作っています。特に、粧坂のりんご畑から眺める最上川と用の断崖は、筆を走らせたくなる絶好の場所です」と話す小﨑さん。

「川と大地がせめぎ合ってできた断崖。深い歴史を感じながら描きました」という油絵は、穏やかな風景の中にも、どこか自然の荒々しさや力強さを感じる作品です。

この絵を含めた小﨑さんの力作約15点が、11月19日㈫から12月15日㈰まで創遊館ギャラリーに展示されますので、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

春 夏 秋 冬

編集後記

昭和四十九年、町誕生二十周年を記念して町の花に指定されたひめさゆり。昨年九月には県内でも珍しい保護条例を制定し、全町あげて保護と育成に取り組んでいます。

このたび、ひめさゆり愛好会が「町全体をひめさゆり園にしよう」という取り組みを本格的にスタートさせました。内容は「まちの話題」で紹介したとおりで、会員たちは「各家庭の庭先をひめさゆりでいっぱいにすることを目標にがんばっていますので、私たちの活動に多くの人が参加してもらいたい」と話しています。

町民みんなの参加と愛情で、愛らしいピンクの花を咲かせることができたなら、どんなにすばらしいことでしょう。私もぜひ参加して、運動を盛り上げたいと思いました。

（F）

広報「あさひまち」は再生紙を使用しています。